

序 章

松山大学は、1923年に創立された旧制松山高等商業学校を起源とする。松山高等商業学校設立の経緯は以下のとおりである。教育家であった加藤彰廉は、山口高等中学校教授、大阪高等商業学校校長を歴任した後、北予中学校（現愛媛県立松山北高等学校）の校長となり、当時の松山市長であった加藤恒忠に、松山の地に高等商業学校を設立することを提案した。この提案に対して加藤恒忠は、すでに松山の地に旧制松山高等学校（現国立大学法人愛媛大学）が設立されていたが、商科系の高等学校が存在していなかったことから、その提案に理解を示し、友人である新田長次郎に高等商業学校を設立するための資金の支援を依頼した。そして、松山市出身で、当時、日本初の工業用革ベルトの開発を遂げて製革業において成功していた新田長次郎は、その提案に賛同し、設立資金として巨額の私財を投じ、わが国の私立高等商業学校としては三番目となる松山高等商業学校が創設されるに至った。新田長次郎は学園創設の父でありながら「学校運営に一切関わらない」との立場を貫き、松山高等商業学校が「独立自尊」の精神で学校運営にあたることを願った。本学会議室には、今日に至るまで長次郎の揮毫による「独立自尊」の額が掲げられている。

その後、1944年に松山経済専門学校と改称され、1949年の学制改革で松山商科大学に昇格した。1989年には松山大学と改称し、現在では、経済学部経済学科、経営学部経営学科、人文学部英語英米文学科及び社会学科、法学部法学科並びに薬学部医療薬学科の5学部6学科を擁し、さらに、大学院経済学研究科（博士前期課程・博士後期課程）、大学院経営学研究科（博士前期課程・博士後期課程）、大学院言語コミュニケーション研究科（修士課程）、大学院社会学研究科（修士課程・博士後期課程）、大学院医療薬学研究科（博士課程）の5研究科に、2020年4月に開設される法学研究科（修士課程）を加えて、6研究科を擁する総合大学にまで発展してきた。

本学は、2023年に創立100周年を迎える歴史の中で、常に「真実」「実用」「忠実」の三つの「実」からなる「校訓『三実』」を抛り所とし、学問と人間性の涵養を目指して、社会に有為な人材の養成を核とする教育に努めてきた。「真実」とは、既存の「知」に満足することなく、真理を求めるために自ら学び、究め続けようとする態度であり、「実用」とは、「知」を単に知識として学ぶだけでなく、自らの生活や仕事の中に活かすべく、常に現実的な問題を念頭に置きながら学ぶ態度である。「忠実」とは、人間関係や社会において、他者と誠実に向き合い、倫理的な態度はもとより、積極的に人と交わり、自らを謙虚に、そして互いの意見を尊重し共有しようとする態度である。すなわち、この「校訓『三実』」は、社会のために有為な人材になるため、「真実」を究め、「実用」を充たす知識と技能を身につけ、「忠実」な人物にならなければならないことを意味している。この「校訓『三実』」は初代校長であった加藤彰廉が創唱し、第三代校長田中忠夫によって、その趣旨がまとめられ、1940年の生徒要覧に掲載されることによって全学に周知された。それ以降、「校訓『三実』」は松山大学に脈々と受け継がれている。

本学がこれまで輩出した7万6千超の修了生・卒業生は、経済界を中心に全国で活躍しており、これは、高等商業学校として出発した本学が、地域の発展に有為な人材の養成を

目指し、「校訓『三実』」に基づく合理的精神と独立の精神を育む教育を実践してきた証と自負している。

本学は2013年度に第2期の認証評価を受審し、大学基準協会より「適合」の認定を受けた。しかしながら、大学評価の結果、「松山大学に対する大学評価(認証評価)結果」において、4つの基準(「教員・教員組織」「教育内容・方法・成果」「学生の受け入れ」「内部質保証」)に関して、「改善勧告」3項目、「努力課題」7項目が付された。本学ではそれを重く受け止め、2014年度より、各学部・研究科・委員会・事務部署において、「達成目標」「目標指標」「評価指標」「改善計画の具体的な行動」などを記載した「改善行動プラン」を毎年度作成し、「松山大学自己点検・評価委員会」において進捗状況を確認することで、提言を受けた事項に対する改善の具体的な取組みを開始した。そして、2015年度には学長事務室・自己点検支援室を設置、翌2016年度にはIR室及び社会連携室を設置し、教育改善等の体制を整えた。2017年度には、これらの取組みの結果を「改善報告書」として提出し、2018年度に「今後の改善経過について再度報告を求める事項」については「なし」との結果を受けた。その後、2018年度には、学内の評価体制を再度見直して、それまでの「松山大学自己点検・評価委員会」を、方針の策定と評価を主とする「学校法人松山大学自己点検・評価推進委員会」と、点検を主とする「松山大学自己点検・評価実施委員会」に役割分担した上で、外部からの評価を取り入れるために「学校法人松山大学外部評価委員会」を設置し、第3期認証評価に備えた。

また、学士課程においては2018年度から2019年度にかけて全ての学部で、3つの方針に沿って新たなカリキュラムをスタートさせるとともに、学生たちの学修環境の改善と整備についても進めてきた。2016年には、これまでの文京キャンパス、御幸キャンパスに加えて、新キャンパスである「樋又キャンパス」を開設し、キャンパス全体にWi-Fi環境を整備し、各教室にICTに対応できる機器を揃え、さらに学生の自主的な学習活動や学外の社会人との共同活動などをスムーズに行える新しいタイプのコモンズである「アカデミック・ソーシャル・コモンズ」を設置した。さらに、文京キャンパスのWi-Fi環境を大幅に改善し、屋外ラウンジ「myu terrace」を設置した。さらに2020年には、御幸キャンパスに、課外活動の新しい活動拠点として新総合体育施設を開設する。この施設には、体育館や共同練習場、卓球場、合気道場、部室などを備え、充実した課外活動の新たな拠点となることが期待されている。

本学では様々な取組みを行ってきたが、これらの取組みが十分であったとは決して考えていない。第3期認証評価に向けて本報告書を作成するプロセスにおいて、多くの課題が見つかり、将来の改善のために意見交換がなされた。それらの課題に対して真摯に向き合い、この認証評価の受審を、今一度、本学の教育を見つめ直し、本学の教育改善への取組みをさらに推進していくための契機としたい。